

たぐすい

TAKUSUI
No. 704

兵庫の漁業人のための情報誌

6

June.2015

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



淡路花博2015 (淡路市)

各団体で総会開催される オーストラリア牡蠣技術養殖セミナー開催

《今月の海上安全標語》～ CPRの基本～

心肺停止時に行われるCPR (胸骨圧迫・心臓マッサージ) は1分間に100回のテンポで行います。しかも、胸が約5センチ沈むほどの強さで押します。イメージはこのようになりますかね～

シーピーアール

CPR 強くて速くて 絶え間なく では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

漁家あるある。ないない？

一般財団法人兵庫県水産振興基金 主任 藤澤 文



漁家に生まれて○十年。私が思う漁家にありがちな事を挙げてみることにしました。

【お家編】

普段のテレビチャンネル権は私たちにあり、ヤ○坊マ○坊天気予報を見たかったが、父の夜7時前N○K天気予報への信頼は絶父が亡くなった後、実家はもろろん、私も無意識のうちにN○Kに合わせている。

其の二 日本茶、紅茶とはちよつと違う「骨茶」という飲み物か食べ物かよくわからないおいしいものを、おばあちゃんと一緒によく食べた。魚以外「すごいご馳走」であったが、外で魚を食べた時に、いつも食べていた魚のおいしさを知った。新鮮な魚は、料理センス口の私でも、そこそこおいしく炊ける（…）と思っている。

其の三 私はメイタガレイをめることだけはできたが、漁家の子どもだからといって、必ず魚を捌けるわけ無ければかりか、生きた魚を触ることも不得意だった。しかし、お陰さまで、アジ、サバ、イワシは捌けるようになった私が悪戦苦闘し、全く見栄えのしない刺身を作った時、父は「これだけできたら上出来や」と恥ずかしくなるほど最大級で褒めてくれ、横で母は「私がきちんと教えてたら…」とため息をつき、「お義父さん甘やかしすぎ」とつぶやいた人もいる。

【お外編】

其の一 夏。時々、海に放り込まれる。悪い事していないのに…。「あせも」がきれいに治る。愛を感じる荒療治。

其の二 三宮で一緒にランチを食べた友達が私に尋ねた。

友…「ヨウシヨクといえは何？」

私…「そうやね。ノリかなあ」

友…「…。(無言)」

私…「(そうか、兵庫県がノリ生産の盛んなことを知らないのだ!)」「ハマチかな。」

友…「お父さんが漁師さんだもんね。そうなるよね。」

私…「????」

他の友達の答えは、その時食べていたビーフシチュー、オムライスなど。あゝ恥ずかしい。質問のヨウシヨクは洋食であって、養殖ではなかった。どうせなら、養殖地ではないが有数の輸出港である神戸だけに、なぜ「真珠」と言えなかったのかと思うと残念…。

厳しい自然と対峙している時の漁業者は、イカヅクて怖く見えるがそれも当たり前と私は思う。でも、海を離れると、やさしくてシャイで頼りがいがあって男前で…。ちよつと褒めすぎたかな？

漁師…「まあ、いつこちやな。」

私…「はあま。」

CONTENTS

No.704 June. 2015

- 2 ようこそ
- 3 平成27年度 通常総代会開催される (内海漁保)
平成27年度 摂播漁青連 通常総会
- 4 平成27年度 淡路地区漁協青壮年部通常総会
平成27年度 淡路地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
- 5 オーストラリア牡蠣養殖技術セミナー・交流会を開催
NPO豊かな森川海を育てる会総会
- 6 LOVE SEA 井に新展開
但馬の魚の提供と兵庫県立大学への食材提供開始
- 7 生サワラ丼の振舞い (淡路島サワラ食文化推進協)
ガザミふやそう会 会員募集
- 8 (公社)瀬戸内海環境保全協会 定時総会
- 9 命を守る運動海上安全講習会
- 10 大輪田塾 第11期生 募集
海難事故をなくそう
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「淡路花博2015」(淡路市)

淡路島全域を舞台にした「淡路花博2015花みどりフェア」は3月21日に開幕し、72日間の会期を終え5月31日に閉幕しました。期間中の来場者数は目標であった300万人を超える356万7千人を記録し、予想を大幅に上回るものとなりました。

今回のフェアは、2000年の「ジャパンフローラ2000 (淡路花博)」の15周年記念事業として、「人と自然の共生のステージ」をテーマに、「あわじ環境未来島構想」の取組みや淡路島を中心とした兵庫の多彩な「食」をアピールするものでした。淡路島内3か所の拠点会場や43カ所のサテライト会場では300を超える催しが開かれ、連日、多くの観光客が訪れました。

平成27年度 通常総代会開催される

兵庫県内海漁船保険組合

5月27日(水)、神戸市内のホテルにおいて、「兵庫県内海漁船保険組合平成27年度通常総代会」が開催されました。

開会にあたり、山田隆義組合長は先ず「総代の皆様のご協力で順調に事業が推進出来ていることに深く感謝します」と述べたあと、「平成26年度事業について、管内35漁業協同組合のご協力により全船義務加入が成立し、剰余金を計上することができた。平成29年4月には漁船保険中央会を含めた漁船保険全国一元化組織の実現を目指し、現在まで漁船保険組織統合準備委員会を9回開催し、協議した内容について取り纏めをおこなっており、本年6月の漁船保険中央会総会での審議を経て、委員会にかわる新たな検討会を設置し、継続して協議することとなっている」と情勢報告を交え挨拶しました。

引き続き、来賓代表として、小林孝司水産課長から祝辞を頂戴した後、総代米岡清一氏(南あわじ漁協)が議長に選任され、提出議案の「第1号議案平成26年度業務報告書等の承認について」、「第2号議案平成27年度事業計画書の承認について」、「第3号議案平成27年度役員報酬額の承認について」、「第4号議案定款及び保険約款の一部変更について」、「第5号議案字句一部修正について」、「第6号議案任期満了に伴う役員選任について」の6議案が審議され、全議案とも全会一致で可決承認されました。

任期満了に伴う役員改選では、理事10人、監事3人の全員が再任され、組合長山田隆義(JF神戸市)、副組合長小溝政二(JF育波浦)、専務理事沢辺義典、代表監事西尾満義(JF浅野浦)が選任されました。

最後に、小溝副組合長が「新たな気持ちで、保険組合の発展と漁業者のために精進し、新組織が漁業者にとってよりよい組織となるように努力する」と述べ、閉会しました。



挨拶を行う山田組合長

魚食普及活動のさらなる拡大へ

「LOVE SEA井」の積極的展開を確認

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会

5月23日(土)、JF兵庫漁連のり流通センター(播磨町)において、摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(大西正起会長・JF伊保)の平成27年度通常総会が開催され、会員、系統団体、行政などの関係者約60名が集まりました。

総会開会にあたり大西会長が「昨年からは始めたLOVE SEA井を今年も展開していく」と挨拶、続いて来賓の(一社)播磨漁友会井上仁会長(JF岩見)から「漁業は厳しい状況ではあるが、日々進歩している。海の利用の可能性は無尽大であり、希望を持って取り組んでほしい」と祝辞



を頂きました。

総会では、平成26年度事業報告及び収支決算、平成27年度事業計画、「ガザミふやそう会」の運営・計画などの案件が審議され、原案通り全て承認されました。総会後に開かれた学習会では、医療機器メーカーの日本光電関西(株)の森澄孝氏より CPR(心肺蘇生法)について、人形を使った実習も交えて詳しく説明があり、参加者は操作手順などを確認することが出来ました。(学習会については、9頁に記事があります)



ビンゴ大会も行われ、会員相互の親睦も深めました

「平成27年度淡路地区漁協青壮年部 通常総会」開催

淡路地区漁協青壮年部連合会

5月29日(金) 洲本市内のホテルにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(山崎 大輔会長・JF淡路島岩屋)の平成27年度通常総会が開催され、会員、行政、系統団体から約70名の出席がありました。

開会にあたり山崎会長は挨拶を行い、「アサリ天然採苗や料理教室など多くの事業をこなし、充実した1年であったと思う。今年度は昨年を超える勢いで行いたい」と積極的な事業展開に意欲をみせました。議事は谷副会長(JF南あわじ)を議長に選出し進められ、平成26年度の事業では、淡路島内でアサリ天然採苗試験の結果や、コープこうべ会員や地元小学生を対象とした料理教室、イベント参加などの活動内容が報告されたほか、平成27年度事業計画などの全議案が審議・承認されました。

総会終了後の学習会では、神戸運輸監理部海上安全環境部 筒井 宣利 調整官より「海中転落防止と救命衣着用の必要性」生き抜くために」と題し、救命衣(ライフジャケット)の有用性や、転落時に漁船に乗り込むのに有効な縄梯子の結び方について説明があり、参加者は実際にロープを使い縄梯子の編み方について学びました。(学習会については9頁に記事があります)



挨拶を行う山崎会長

平成27年度 淡路地区漁協女性部連合会通常総会・ 研修会 淡路地区漁協女性部連合会



5月23日(土)、淡路水産センターにて、平成27年度淡路地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。

10会員のうち、9会員(1委任状) 23名と県洲本農林水産振興事務所 山下 正晶所長補佐(一社) 淡路水交会 東根 壽会長、JF兵庫信漁連 里 昭彦専務はじめ来賓11名の出席のもと、平成26年度事業報告及び収支決算、同27年度事業計画及び収支予算、規約の変更、役員任期満了に伴い新役員が承認され滞りなく終了しました。

総会の後、天然石けんのエスケー石 鯨(株)鈴木 浩二氏を講師に迎え、「わかしおせつけんは海をまもる」をテーマに、合成洗剤と天然石けんを比較した映像などを見て家庭で取り組める環境改善について学習しました。

今回は、汚れた換気扇のフィルターや食べこぼしが残る衣類、茶渋のついた急須の汚れを取る実演を行いました。汚れた部分をこすらずに液体石けんを混ぜた水に漬けて置き、1時間ほど置くと、汚れはきれいに落ちました。合成洗剤のように強力な成分が入っていないのにと参

加者は天然石けんの効果に驚いていました。まず家庭から生活の場である海を守ることに励むことを学びました。

淡路島では天然石けんの推進運動が盛んですが、まだ普及の余地があります。洗濯用や食器用も多数取り揃えがありますが、浴用や化粧品も商品が多く、もちろん体にも環境にも優しいものばかりだと説明され、女性部の皆さんの関心はとて高く熱心に受講されました。

【新役員のご紹介】●会長 森武美(JF福良・再任) ●副会長 松帆悦子(JF淡路島岩屋・再任)、菅すみ子(JF南あわじ) ●理事 長岡ひふみ(JF津名)、来田浩己(JF仮屋)、森 成美(JF森)、河野久己(JF浅野浦) ●監事 小溝ひとみ(JF育波浦)、伊藤孝子(JF沼島) (順不同、敬称略)



鈴木講師の講演

オーストラリア牡蠣養殖技術セミナー！ 交流会を開催 ～西播地区のカキ生産者と意見を交わす～

JF兵庫漁連 広報部

国内外で養殖カキの品質が良く高い評価を受けるオーストラリアは、東日本大震災で壊滅的な打撃を受けたカキ養殖と、年々減少する漁業者数に歯止めが掛からない日本の現状に少しでも貢献できればと、全国のカキ産地を訪問し、技術交流や人的交流をおして支援する「長期的パートナーシップ」の構築を図っており、すでに宮城県、東京都、広島県などでも同様のセミナーを開催しています。5月13日(水)、県内でカキ養殖を行っている生産者や試験的にカキ養殖に取り組んでいる生産者を対象に、同国のカキ養殖の方法や技術などを紹介し意見を交わす「オーストラリア牡蠣養殖技術セミナー・交流会」がJF赤穂市会議室で開催され、カキ生産者のほかJF・行政の担当者ら約70名が集まりました。

同国のカキ



「日本のカキ養殖の発展に貢献したい」とするパーキンソン氏

養殖業者「セルフィッシュカルチャー」のスコットパーキンソン氏によると、オーストラリアでは3種類のカキが養殖され、マガキは1947年に日本からもたらされたとのこと。恵まれた海域環境とその保全が行われるとともに、自動化された養殖技術、安定した生産で海外へ輸出も行う種苗から生み出される同国の高品質なカキは97%が殻つきで、マガキは2013年度では約8、100トンの生産量があるそうです。質疑応答では、養殖環境や稚貝などについて多くの質問があり、終了後にも個別に質問する漁業者の姿が見受けられ、関心の高さがうかがわれました。

NPO豊かな森川海を育てる会総会終わる

(一財)兵庫県水産振興基金



この会は、森林、河川、海域が縦割りに管理されるなか、流域住民、市民団体、研究者、事業者、行政機関など多様な主体と協働しながら、流域を巡る物質循環のバランスを回復させ、健全で豊かな流域環境の再生と保全を図ること。そして次世代に豊かで美しい国土を継承し、持続可能な社会づくりに貢献することを目的に平成23年9月に設立されたものです。住吉川で魚道設置に取り組み稚アユ遡上の復活に努めるほか、六甲山域

が出席しました。改選では島本会長ほか留任4名、新任3名(うち監事1名)が選任されました。委任状を含む42会員が出席しました。

特定非営利活動法人(NPO)豊かな森川海を育てる会(島本信夫会長・62会員)の総会が、5月9日(土)午後、神戸市勤労会館で行われ、平成26年度事業報告、27年度事業計画など提

案されたり議案は何れも原案通り可決承認されました。なお、役員改選では島本会長ほか留任4名、新任3名(うち監事1名)が選任されました。委任状を含む42会員が出席しました。

この会は、森林、河川、海域が縦割りに管理されるなか、流域住民、市民団体、研究者、事業者、行政機関など多様な主体と協働しながら、流域を巡る物質循環のバランスを回復させ、健全で豊かな流域環境の再生と保全を図ること。そして次世代に豊かで美しい国土を継承し、持続可能な社会づくりに貢献することを目的に平成23年9月に設立されたものです。住吉川で魚道設置に取り組み稚アユ遡上の復活に努めるほか、六甲山域

で植樹や除伐活動、河口干潟で海岸清掃、生き物観察会など地域住民とともに里海づくりをめざす等々幅広く活動しており、JFグループ関係者も様々な行事に参加しています。

総会のあと「環境保全と合意形成」協働と主体形成に向けたプロセス・マネジメントの理論と技術」と題して、神戸市立工業高等専門学校都市工学科講師 高田知紀氏による記念講演会が行われました。自然環境の保全・再生を図る上で、地域住民や行政や専門家等々多様な主体の協働をどのように実現するかは大きな課題であり、例えば、公園づくりでも行政と住民の間には「創り手」と「使い手」で視点が異なる。焼却炉を造るのも総論賛成、各論反対は常にあり、多数決方式でも意志決定には限界がある。合意形成には賛否の意見の違いより、「何故賛成か、なぜ反対か」という意見の本質から掘り下げ、共有可能な価値を掘り起こすことから始まる...という。漁業漁村では合意形成を求められる場面が多々あり、その難しさは誰しも知っている。ややもすれば多数決で進みがちな現社会の合意形成の在り方に警鐘を鳴らす興味深い話しでした。

LOVE SEA井に新展開

但馬の魚の提供と兵庫県立大学への食材提供開始!

(一財)兵庫県水産振興基金



4月のLOVE SEA井は「いかなご釜揚げ井」

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(大西 正起会長・JF伊保 以下、摂津播磨青連)が関西学院大学生協との連携で始まった「LOVE SEA井」の取組みは、これまで摂津播磨地区の水産物を提供し、人気商品となつていきます。4月からは兵庫県立大学(姫路キャンパス)の食堂でも食材提供が始まりました。同大では、海や漁業への理解を求め、手作りポスターを作製しPRした初お目見えの「いかなご釜揚げ井」は4月22日(水)〜24日(金)の3日間すべてで早々に完売と、



学生が自ら、海や漁業の現状を紹介するポスターを作ってくれました(兵庫県立大学姫路キャンパス)

この取り組みには、さらに他大学も興味を示しており、ますますLOVE SEA井から目が離せなくなってきました。

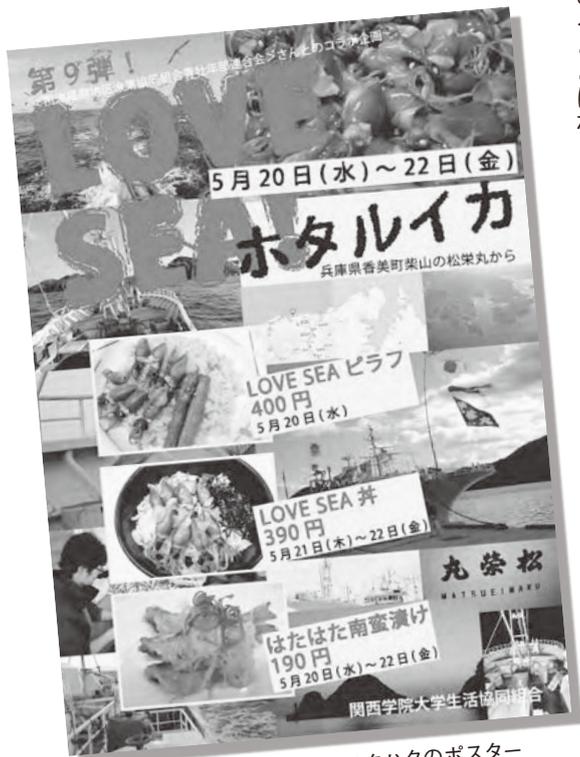
この取り組みには、さらに他大学も興味を示しており、ますますLOVE SEA井から目が離せなくなってきました。

この取り組みには、さらに他大学も興味を示しており、ますますLOVE SEA井から目が離せなくなってきました。

好調なスタートを切りました。ただ、この取り組みは、これまで同会が旬の水産物を確保し加工して提供することが難しく、メニュー提案にも苦労することもありました。そこで魚種と漁獲量が豊富な但馬の魚を使うことで、多彩なメニューの提案とともに、「兵庫の魚」をもっと知ってもらえる機会になればと、4月10日(金)大西会長がJF但馬柴山支所 寺川 寿人さん(同支所青壮年部長)のもとを訪れ、食材提供への協力を求めました。

寺川さんは6次産業化にかかる総合化事業計画の認定を受け、漁獲から加工・販売まで取り組んでおり、一次加工された水産物の提供が可能とのこと。打合せでは、寺川さんから但馬の魚について説明があり、「但馬の魚とその美味しさを知ってもらいたい機会なので是非協力したい」とされ、JF但馬や但馬地区漁協青壮年部の理解もあり、試験的に始めることになりました。その後、関西学院大学、兵庫県立大学との商談において、5月のメニューとしてホテルイカ・ハタハタの採用が決定し提供したところ、こちらも3日間ともに早々の完売となりました。大学生協関係者からは「今後も使いたい」との声が上がるほど好評を得ており、これからは但馬の魚が提案される予定です。

寺川さんは6次産業化にかかる総合化事業計画の認定を受け、漁獲から加工・販売まで取り組んでおり、一次加工された水産物の提供が可能とのこと。打合せでは、寺川さんから但馬の魚について説明があり、「但馬の魚とその美味しさを知ってもらいたい機会なので是非協力したい」とされ、JF但馬や但馬地区漁協青壮年部の理解もあり、試験的に始めることになりました。その後、関西学院大学、兵庫県立大学との商談において、5月のメニューとしてホテルイカ・ハタハタの採用が決定し提供したところ、こちらも3日間ともに早々の完売となりました。大学生協関係者からは「今後も使いたい」との声が上がるほど好評を得ており、これからは但馬の魚が提案される予定です。



学生制作のホタルイカ・ハタハタのポスター(関西学院大学生協)



大西会長(中央)・寺川さん(右)はともに大輪田塾修了生という繋がり

生サワラ丼の振舞い

（一財）兵庫県水産振興基金



今年度の発売が4月から始まった生サワラ丼は、淡路島サワラ食文化推進協議会（福島富秋会長・JF五色町組合長）が制作したキッチンカーを使ってのPRを行い、各地で好評を得ています。この取り組みを漁業系統団体でも知ってもらいたいと「生サワラ丼の振舞い」が、5月25日（月）水産会館で行われました。

この日、系統団体職員を対象に用意された生サワラ丼・タタキ各70食の準備のため、JF五色町 福島組合長をはじめ役員・青壮年部員と洲本市職員らが準備に追われました。提供されたのは、温かいご飯に生サワラを並べ、お好みで刻み海苔・ゴマを乗せてダシ醤油を掛けるもので、食べた職員からは大変好評を得ました。

関係者によると「今期のサワラ漁は順調。井のPRは、何度か開催されたイベントでも好評を得ている。20店舗に拡大した各店舗での売れ行きも良いと聞いているので期待したい」とのことです。この日は、水産会館で行われたJF兵庫漁連シートクラブの料理教室でもサワ

（一財）兵庫県水産振興基金
ラが取り扱われ、まさに、サワラ一色、となった一日でした。



昼食時には大勢の職員が列を作りました



ガザミふやそう会 会員募集!!

自然の力によってガザミ資源を増強しようという取り組みを実践する「ガザミふやそう会」（大西 正起 会長）は、全国でも高く評価され、他県でも行われるなど大きな輪となって広がっています。

昭和61年から始まったこの取り組みは、県内漁業者、JF、系統団体のほか、一般市民や他県の水産関係者からの会費によって運営されており、現在、平成27年度の会員を募集しています。“兵庫発”の取り組みに、是非ご賛同ください。

平成27年度の新しい会員証（オリジナルQUOカード）が出来ました！



～会費・入会に関して～

- ・会費は1,000円/年です。
- ・会員の証として、オリジナルQUOカード（500円分）をお渡します。
- ・取り組みの内容など詳しくはJF兵庫漁連ホームページをご覧ください。

【事務局】 〒675-0163 加古郡播磨町古宮字堀坪1-4 JF兵庫漁連のり流通センター内
JF兵庫漁連のり海藻事業本部資材部 ガザミふやそう会事務局
TEL：078-942-9272 FAX：078-942-9340

(公社)瀬戸内海環境保全協会 定時総会を開催

平成27年度 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会定時総会



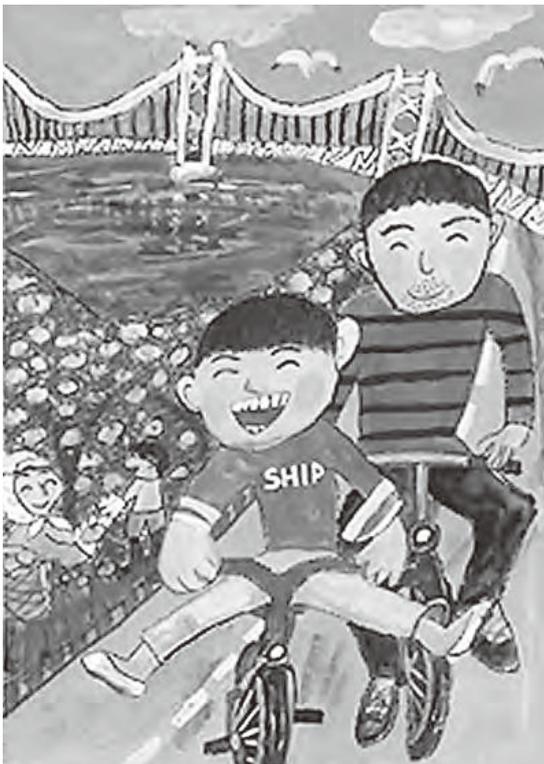
JF兵庫漁連

5月19日(火)、神戸市内において(公社)瀬戸内海環境保全協会(理事長:井戸敏三 兵庫県知事)の「平成27年度定時総会及び特別講演会」が瀬戸内海の関係団体(行政・漁業・環境関係等)参集のもと開催されました。冒頭、井戸知事より「今、瀬戸内海の水質は改善し、きれいになったが、漁獲量が過去と比べ6割も減ってしまった。また、白砂青松に例えられ美しい海岸がなくなってしまう。それら課題に対処するため、先月瀬戸内海再生議員連盟が超党派が出来ており、今国会での瀬戸内海特措法の改正を期待する。」と挨拶され、続く、来賓の環境省閉鎖性海域対策室 根本 桂三室長は「本年2月に新たな瀬戸内海環境保全基本計画が閣議決定され、今後赤潮対策に加えて貧酸素や生物多様性・生産

性の確保を課題として取り組んでいきたい。」と述べられました。総会では、平成27年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの優秀賞等受賞者の表彰も行われ、議事は滞りなく承認されました。

総会後の特別講演では、(独)水産大学校 鷲尾 圭司理事長が登壇し、「海の豊かさ」は人によって見解が様々。海水浴をする人は単にきれいな海、漁業者は魚の湧く海など望むものが様々。今後どう折り合いをつけていくのか知恵のみせどころ。」とした豊かな海づくりへの意識啓発と、「富栄養の背景には、戦後の食糧増産のための農業用化学肥料の大量投入があったため。これからの漁業は消費者の需要に合った少量多品種生産という質を重視

することを視野に入れるとともに、世界の食糧問題を考えれば、国土に資源と情熱を再び投入し、生物生産力を高める国民運動が大切で、物質循環に配慮した持続可能なモデルが必要」と締めくくられました。



最優秀賞
中尾拓人(徳島県吉野川市 小学生)



講演を行う鷲尾理事長

命を守る運動 海上安全講習会

～AEDと縄梯子作成～

JF・系統団体が各地で開催している「命を守る運動海上安全講習会」。

今回は摂播地区・淡路地区の両漁青連が総会后に海上安全講習に関する学習会を開催しました。

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会 学習会

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西正起会長・JF伊保）は平成27年度通常総会を、5月23日（土）JF兵庫漁連のり流通センターで開催し、その後、学習会「CPR（心肺蘇生法）について」を行いました。講師には日本光電関西株 森澄孝氏を講師に迎え、CPRの実践方法に加え、AEDの基本的な操作方法と注意事項を、人形を使った実習を交えながら学びました。



森講師からは①慌ててしまつて直ぐにCPR（胸骨圧迫）に取り掛かつてしまつが、まずは119番通報をする、②CPRは肋骨が折れても続けること、③CPRは1分間に100回以上のテンポといった注意点が話され、人形を使った実習では、参加者は3人1組となつて交代で絶え間なくCPRを行うとともに、AEDの注意点も確認しつつコミュニケーションを行いました。



淡路地区漁協青壮年部連合会 学習会

27年度通常総会を終えたあと、学習会「海中転落防止と救命衣着の必要性（生き抜くために）」を開催し、神戸運輸監理部海上安全環境部筒井宣利調整官が講師を務めました。筒井講師は海中転落が起つた際に予想される低体温症（ハイポサーミア）の症状や、それを引き起こさないようにするためのHELPの姿勢を紹介し、呼吸の確保とともに、生き抜く強い意志を持つことの重要性を話されました。また、海中転落時に船によじ登ることが困難であることから、船に取り付けておく縄梯子を作成する実習がありました。開始早々、素早く綺麗に作り上げる参加者が多く見られ、比較簡単な海難防止の手法として認識してもらえたようです。



縄梯子を簡単に作り上げたJF南淡 西山 征吾さん、西野 智哉さん、西野 恵介さん（左から）

大輪田塾 第11期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」。めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材育成を目的に始まり、すでに卒業生は地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

この「大輪田塾」では現在、10月に入塾される第11期生を募集しています。皆様のご応募をお待ちしております。

◎応募資格

- ①原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
- ②原則として、JF関係役員歴10年以上かつ45歳未満

のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者

◎在籍年限

原則2年（最長3年）



JF兵庫漁連水産加工センターの見学（県内研修）



外傷への対応（水産会館）

募集は8月末に締切、その後、面談を行い運営委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。

詳しくは大輪田塾事務局まで。

（募集要領・願書などの書類は各JF・系統団体宛にお送りしています。）

問合せ先（事務局）（一財）兵庫県水産振興基金 大輪田塾事務局

〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3 TEL 078-919-1331

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着よう!

新しい膨張式ライフジャケットが発売されています。動きやすいよう胸の部分が短くなって、手動で膨張させる紐も引っ掛かりません！是非、お試しください！

膨張式ライフジャケット

モデル:

JF兵庫漁連のり検査部 殿垣 学さん



～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

浮きます!

モデル:

JF兵庫漁連 広報部 楊 理恵さん



ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078-942-9272）までお問い合わせください

「第59回通常総会」を開催 委員長に原智宏氏

兵庫県農協青壮年部協議会は4月24日、兵庫県農業会館で「第59回通常総会」を開催しました。総会には、県内の5組織の代表者をはじめ各連合会からの来賓、事務局等24人が出席。26年度の活動報告や27年度の活動計画など4議案が全て承認されました。

平成27年度の重点項目として、①組織活動強化②農業経営に関する学習活動③農政問題の共有を挙げました。組織活動強化の取り組みでは、JA青壮年組織の活動の活性化に向けて他組織・他団体との交流活動を行います。

新役員には、委員長に原智宏氏（JA丹波ささやま青年部）、副委員長に井上幸一氏（JA兵庫南青壮年部会）、監事に植田博成氏（JAたじま青壮年部）が選出されました。

原新委員長は「新役員と県内のJA青壮年組織盟友の皆さんと共に、県内組織活動強化にベストを尽くしたい」と今後の抱負を語りました。



平成27年度県青協役員の前委員長（中央）、井上副委員長（左）、植田監事（右）

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

ボランティア懇親会で 交流を深める

たじま医療生活協同組合では、毎年行っている「送迎ボランティア」懇親会を、今年初めて「抱っこボランティア」と合同で行い、養父市八鹿町の但馬長寿の郷に、合わせて19人が集まりました。外来受診の支援として活動する「送迎ボランティア」、子育て支援の一環として、予防接種など診療所に来られる赤ちゃんを抱っこする「抱っこボランティア」の方々が交流を深めました。

懇親会の前に、それぞれの会議を行い、日頃の活動における課題等を話し合いました。会議終了後、机一つに並べてお互いのボランティア活動がどういふものか理解を深めたり、楽しく歓談したりしました。

豪華弁当や久美浜湾水揚げの「かき」、送迎ボランティアと抱っこボランティアに参加のご夫婦の手作りおでんが大好評で「こんなにすごい料理とは思わなかった」「来年もぜひ参加したい」と声が上がりました。

また、福祉施設等を回って三線や尺八を演奏しておられる「なごみ」のお二人と一緒に歌を歌い、大いに盛り上がりました。尺八を吹かせてもらった方もありましたが音が出ず、難しさを実感されていました。

「おいしいものを食べてばかりではだめ！運動もしましょう」と、みんなでサンバを踊り、カロリーを消費。医療生協らしさもあり、大笑いの楽しい親睦会でした。



◀「なごみ」の演奏



▶踊ってカロリー消費！

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

お詫び

5月発行の拓水第703号 3頁の「平成27年度 県功労者表彰」において、下記の表記に誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

本文1行目

〔誤〕 「平成26年度県功労者表彰」

→

〔正〕 「平成27年度県功労者表彰」



旬に想う

写真と文
遊方子

ネギとショウガ

◆丹波路の禅寺に「不許葦酒入山門」と刻まれた石柱があった。葦とはニンニクやニラ等の臭いネギ属の野菜で、スタミナが付き過ぎて修行の邪魔と禁じている。匂いが強いタマネギやネギ・ラックキョウを含め、野菜パワーの強さは昔から知られており、その刺激臭や辛みが特徴だ。成分アリインは切ったり擦りおろすと酵素が働きアリシンに変化する。当初アリシンに様々な効用があると思われたが、アリシンは体内でサラに分解されイオウ化合物に変わって、その生理作用で、血行促進・過労や食欲不振・精神安定・風邪の予防にも効果があると判明している。ネギ類の持っているこれらの成分が健康増進に大いにいい。

◆ネギの葉は左右にしか出ない。葉が左に出ると次の葉は正反対の右に出る。そのため、葉の向きを揃えて定植すれば、間隔を詰めても蒸れること無く、狭い場所で密植が可能となつて多く植えられる。根深ネギにするには、何度か土寄せし畝高くし軟白すれば善いがある程度育つたのを深く植え直して白くする法もある。粘土質の土を高く盛り上げ、白くて長いネギを揃え、鍋物に活かす。冬の楽しみである。またネギを甘味噌タレで和えたヌタも実に美味しい。

◆生姜は唐辛子ほど主張せず、ニンニクほどの個性もないが、特有の香りと辛みにより食欲不振を吹き飛ばしてくれる。香辛料として昔から身近にあり、利用している薬用植物だ。インドの伝承医学で「万病の薬」といわれ、食欲を増進させ消化を促し、健胃剤・発汗剤として利用する。十四世紀のペスト大流行の時には特效薬として活用されたが、大量に汗をかく事で病魔を退散させたらしい。治療体系では発汗法が重視され、毒素を汗にして排泄させるのが良いという。風邪の時も熱爛に生姜を擦って入れ、大量に汗をかけば快癒するそう。英語のジンジャーは乾した生姜を指しビスケットやケーキ・パンなどに使う。

◆徳川11代将軍・家齊公は正妻のほか十七人の愛妾との間に、五十五人の子をもうけ子宝日本一の記録を建てた。その強精の秘密は、毎食に生姜を食べる事だったそう。生姜が強精剤となつていたようだ。生姜は熱帯アジアの原産種ながら、早くから栽培され愛用してきたが、体を温める事により新陳代謝を良くして体調が保てるのである。冷え性に悩む人は、生姜をもつと活用すればいい。また生姜の成分に、血小板凝集抑制の効果が判り、血栓症の予防にも役立つ。いわゆる血液サラサラ効果が認められている。生姜やネギなどは、もつと利用されていい野菜だと思う。植物の持つ有効成分に大いに感謝なのである。

大輪田塾だより



西野主幹による講義の様子

漁業法と環境技術について

5月の大輪田塾は、水産会館にて12日(火)、26日(火)の2回開講しました。

12日(火)は、「漁業法概要」で県水産課漁政班漁業管理担当 西野 英樹主幹と峰 浩司主査を講師に迎えました。西野主幹は、漁業権の性格や種類、その免許までの流れなどを中心に、峰主査からは漁業調整規則について詳しく講義がありました。毎年開講しているこの講義ですが、塾生からは「何度聞いても勉強になる」との声がありました。



講義を行う井上氏



峰主査はライフジャケットの着用を呼びかけました

【今後の大輪田塾の予定】

- 6月9日(火) 「水協法概要」(講師：県水産課漁政班 望月班長 都倉主査)
- 6月23日(火) 「農協改革について」(講師：JA兵庫中央会 浜田 充専務)
- 「実践版 効果の上がる魚食普及」(講師：(株)ウエカツ水産代表 上田勝彦氏)

7月4日(土) 大輪田塾10周年記念式典(於：神戸市)